

様式第3号

議 事 録

会議名	川西市総合教育会議(第3回)		
事務局(担当課)	行政経営室		
開催日時	平成28年2月19日(金) 15時00分から16時20分		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	川西市 大塩市長  川西市教育委員会 牛尾教育長、加藤委員、磯部委員、服部委員、鈴木委員	
	関係職員	松木総合政策部長、中塚こども未来部長、石田教育推進部長	
	事務局	総合政策部行政経営室 船曳室長、志波主幹、小野副主幹、稲治主査	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 議事 平成28年度の「川西の教育」について 3 その他		
会議結果			

発言者	発言内容等
事務局	<p>それではただ今より、第3回川西市総合教育会議を開催させていただきます。会議開催に当たりまして、総合教育会議の主宰者であります大塩市長からごあいさつをさせていただきます。</p>
大塩市長	<p>本日は、第3回目の川西市総合教育会議を招集しましたところ、ご出席をいただきありがとうございます。</p> <p>昨年5月に当会議を開催し、早いもので第3回となりました。本市における教育大綱の位置付けの議論にはじまり、平成28年度の教育施策と予算についてなど、多岐にわたり委員の皆様と意見交換をさせていただきました。</p> <p>本日は、議題にありますとおり、「平成28年度の「川西の教育」について」、意見交換をさせていただくわけではありますが、前回、委員の皆様と意見交換いたしましたスクールソーシャルワーカーの配置、地域人材を活用した外国語活動の展開、学校図書館の充実、社会科副読本の内容の充実などを平成28年度予算案に盛り込んでおります。これらの事業をどのように実行していくかは新年度の課題だと思っております。</p> <p>本日は教育長をはじめ、教育委員のみなさまと平成28年度の川西の教育について、しっかりと意見交換を行い、私の教育に対する考えも述べさせていただきたいと思っております。来年度に向けて、これまで以上に連携を強化し、教育に関する諸課題に共に対応してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いを申しあげます。</p> <p>以上簡単ではありますが、開会に当たってのごあいさつとさせていただきます。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>これよりの会議の進行につきましては、大塩市長にお願いしたいと思います。市長、よろしくお願いいいたします。</p>
大塩市長	<p>それでは、この後は、私の方で議事進行をさせていただきます。</p> <p>まず、「平成28年度の「川西の教育」について」を議題といたします。</p> <p>委員の皆様から、平成28年度の「川西の教育」について、それぞれ、お考えなどをお話いただければと存じますが、いかがでしょうか。</p>
牛尾教育長	<p>それでは私から意見を述べさせていただきたいと思っております。</p> <p>パワーポイントの資料も交えてお話しさせていただきます。</p> <p>川西の教育の27年度までの取組みと28年度に向けての概要についてお話をさせていただきます。</p> <p>まずフクロウです。猛禽類でまさに川西市にこういった、すばらしい日本一の里山にそういったものが住んでいるまちであります。</p> <p>川西市の人口は16万人です。41市町がある中で今、人口では9番目のまちです。兵庫県が一番東にあるまちです。</p> <p>リンドウと桜が市花と市木であります。</p> <p>いくつか紹介したいと思います。日本一の里山、黒川地域があります。これは一番上の国蝶「オオムラサキ」、右側には日本で一番大きい「オニヤンマ」など48種類のトンボが飛びます。</p> <p>下はエドヒガンを中心に日本一の里山を象徴するようなエドヒガン。</p>

発言者	発言内容等
	<p>           こういうところで「日本の里100選」にもなっている黒川地域があります。            2つ目に国の登録有形文化財、川西市郷土館です。            平安邸、平賀邸が象徴的です。NHKの連続テレビ小説「まっさん」のロケ地にもなったり、映画のロケ地にもなったりしました。こういうところを持っています。            国・史跡は多田神社であります。            満仲公由来の所で、ここもとても有名な場所です。            4つ目に四天王のひとり、坂田金時をあげていますが、まさに源頼光の家来として象徴されるように、きんたくんが川西市のマスコットキャラクターとして活躍しています。            加茂遺跡、これは弥生時代中期の大規模な環濠集落であります。            20ヘクタールの規模をもって、まさにこの辺一帯が本当に国指定の遺跡として生かされているところなんです。これについての保存・活用計画を今年度に策定をして最終段階に入っているところです。            これからの市民の憩いの場、環境体験や生涯学習の場、防災の拠点にもなる、まさにまちのシンボルとしてこれから活かされる、キセラ川西の中央公園、せせらぎ遊歩道も来年の4月に供用が開始されるということで聞いております。            地産地消、学校の給食にも使われている、桃・いちじく・栗等、水もですね。これも川西市の誇るべき財産の一つであります。            川西市はめざす都市像を設けられ、教育委員会もここのライフテーマ「生きがい」をもって、「育つ」と「学ぶ」政策を今進めているところです。            第5次総合計画の基本計画の中のテーマ「生きがい」の中に政策、「育つ」というところに3つほど施策を挙げています。教育のもうひとつの方で「学び」の政策として、ここに7つほど挙げています。            これをお手元の川西の教育の基本方針の中に入れて、それを受けて具体的に進めているところです。            27年度からは2部体制でスタートいたしました。28年度も、中央図書館そして青少年センターの一部配置替もする中で来年度も2部体制4室で進めてまいりたいと考えています。            教育委員会としては基本理念、「地域と人の輪でつくる 育ち学び合う教育の推進」を理念に挙げ、4つのめざす人間像をもって進めてまいります。            具体的には就学前から話しますと、就学前保育について、川西市には50の公立、私立の就学前保育の施設がございます。認定こども園からこちらの事業所に関する保育まで、こういった横の関係づくり、そして、将来小学校にいくわけですから縦の関係づくりをしっかりと進めていきながら取り組んでまいります。            次に就学前のもうひとつ。27年3月に策定しました、川西市子ども・子育て計画に則っていくつかの課題があるわけですが、これを受けて再編・一体化事業計画を来年度も進めてまいります。            学校教育です。その保護者にも、子どもたちにとって中軸になる生きる力の基礎となります。学力の向上については、まず授業力の向上、授業をしっかりとつくっていくということ、それを受けて先生の自己研修はもとより、初任者研修、現職研修、経験者研修、そして管理職研修、そういったことを市指定の研修会等も受けて進めてまいりたいと思います。もうひとつの学力向上の柱として「きんたくん学びの道場」、昨年度、全小学校に支援員を配置しました。家庭学習の習慣化、基礎・基本の定着、学び方をどう教えていくのかということ、指導員をもって進めていると         </p>

発言者	発言内容等
	<p>ころです。</p> <p>また、こちらは夏の寺子屋といって中学校を中心に大学との連携をしながら学生ボランティアを配置したり、地域の学習支援のボランティアに入っていたりして、夏の寺子屋、学力向上のための教室を開いて進めているところです。</p> <p>学力向上のもう一つ、外国語活動であります。</p> <p>昨年度まで5・6年生で1クラスにALTがほしい8時間入っています。</p> <p>28年度に向けてはさらに地域の指導員も入っていただき、1クラス年間20時間程度のALTと地域の支援に入っていただき、チームティーチング方式での取組みができる体制を考えています。</p> <p>学力向上の読書活動について、子どもたちに本に親しみを持ってもらう、これもとても大事です。中央図書館と学校図書館の連携を進めています。特に中央図書館の方では団体貸出ということで、実質本200冊8週間貸出システムを数年前から実施しています。こういった取組みの中で2クラスでしたら100冊を4週間ずつ実際に学級で読む機会があります。こういったことが小中学校・幼稚園にも広がっています。いま一つ、ビブリオバトルを通して子どもたちに自分から積極的に本に親しむ取組みを作って、こういったことが児童会・生徒会活動の図書委員会活動に発展していくように進めているところです。</p> <p>心の教育について、基本的には各校の道徳とか教育が基本ですが、市としては市長も強く推していただいています里山体験学習、これを全小学校4年生対象に1,400人くらいの子どもたちに日本一の里山に触れる、命の尊さ、畏敬の念、環境保全の大切さ、こういったことを通して豊かな心の育みにつなげているところです。</p> <p>指導員の方々の応援をもらって、下草を刈ったり、観察活動を進めています。</p> <p>体系的に見ますと幼稚園時代、1・2年生の生活科総合、3・4年生の里山、5年生の自然学校というかたちで系統的に取組みを進めています。</p> <p>特別支援教育も大事な視点です。特別支援教育の視点に立った学校・学級づくりが本当に大事になってこようかと思えます。そういう面では通常学級にも活かしていくんだという特別支援教育の視点をもった学習・生徒指導・研修・特別活動、こういったところの取組みを今後進めていく必要があると考えています。</p> <p>キャリア教育、まさに生き方を学ぶ教育であります。幼稚園時代、保育所時代の生活発表会、5歳児です。</p> <p>そして10歳の時の2分の1成人式、中3の時に自分の進路を語る、または3年間を振り返る。こういった取組みの中で成人式が1月にありましたが、今年も2人の方に20歳の抱負を発表してもらいました。こういった取組みを大事にして、また学校関係にも支援をしてまいりたいと思います。</p> <p>キャリア教育の中で市長のお考えの中で進めているものです。「先輩に学ぼう事業」、これは平成23年度頃から実施しています。西畠清順さんは川西北小、川西中学校の卒業生です。こういった方を含め、いろんな所で活躍をされている方々に帰ってきてもらい、授業をしていただく。子どもたちは自分の進路や今の自分はこれでいいのかな？というところを見つめる大いに大切な機会になっています。</p> <p>生徒指導について一つ、26年度に「川西市いじめ防止基本方針」を策定しました。各学校は既に基本方針を策定してチームを設け、マニュアルを整備してこういった視点をもった学校づくり、学級づくりを進めていただいているところです。</p>

発言者	発言内容等
	<p>今一つ、安全・安心の面で学校、幼稚園関係、PTA の協力、地域の方々の協力を得て、例えば不審者対応訓練、県警ホットラインです。これを押しますと数分で県警関係は来てくれます。防犯カメラ、110 番のおうち等の安全協力員制度の体制、青パトの地域の方々の支援もいただいております。ただし、顔と顔の関係づくりが第一ですので、地域づくりで子どもたちの育みを進めてまいりたいと思います。</p> <p>中学校区は「ふるさと」であります。</p> <p>地域社会全体を基盤とした縦・横の教育を進めてまいります。各中学校区の目標と、「めざす子ども像」も経て保育所・幼稚園関係、学校関係のチームで中学校区の取組みを進めているところです。</p> <p>連携教育のこういった縦・横の教育の柱として取り組んでいることが教職員関係の懇談会、研修体制、地域・コミュニティの方々の応援、公民館と学校の関係、PTA 役員の方々も中学校区で順番に交流会をしていただいております。</p> <p>そういう関係の中でまさに中学校区は「ふるさと」だということで、学校関係の縦と横の関係をづくりながら教育の充実に進めてまいりたいと思います。</p> <p>就学前教育について、これも先ほどと関係あるのですが、授業を小・中学校で交流する、行事を交流する、トライやるウィークもそうですけど、先生方も出前授業等で小学校に行く。</p> <p>また中学校区で人権教育を中心とした全教職員の研修も進めているところです。</p> <p>こういったことをそれぞれの分野で進めてまいりたいと思います。</p> <p>就学前教育・保育、小・中学校の連携ですけれど、出前授業、小学校に、例えば中学校の理科の先生が行かれて 6 年生の授業をする。また小学校と幼稚園で給食の交流をする。または、生活科とかの授業を一緒に受ける。こういった体制も大事にしていきたいと思います。</p> <p>そして、連携教育の中に一つは保育所と幼稚園の関係、就学前と小学校の関係。今一つは小中の連携と小中一貫型の小学校中学校教育のモデルにおける連携教育を進めてまいりたいと思っています。</p> <p>小学校から中学校の接続を大切にしていく。6 年生で切れるのではなくて兄弟姉妹親御さんは一緒ですから、9 年間の中で子どもたちを育てていくというところを大事にしながら中学校区の小中連携教育を今後進めてまいりたいと思います。</p> <p>地域との関わりです。一つは学校支援地域本部事業、市内の小中学校に 500 人の図書ボランティアがおられます。こういった方々に地域の応援団として活躍していただいております。また指導員の方が授業に実際に入って支援をいただいております。</p> <p>留守家庭児童育成クラブも 28 年度からは 5 年生まで拡大することになります。</p> <p>こういったところも進めていかなければなりません。放課後子ども教室においても、学習支援等をしていってもらっているところです。</p> <p>給食に関して、昨年度に基本方針を策定しました。28 年度に向けてモデルとなる方向を検討してまいりたいと思います。アレルギーの対応についてもマニュアルを作成し、アナフィラキシーといった非常の時には対応できる実地研修も進めているところです。</p> <p>施設関係で耐震化が本年度で終了しました。本当にありがとうございました。</p> <p>それと同時に日々それぞれの学校でニーズの高い物からできる限り施設関係</p>

発言者	発言内容等
加藤委員	<p>の整備に努めているところです。</p> <p>今後は空調の事も進めてまいりたいと、市の方針を受けて、ご協力をいただいて進めてまいりたいと思います。</p> <p>社会教育について、一つの柱が生涯学習短期大学「レフネック」です。いま一つは高齢者大学りんどう学園であります。この2つの柱をもっています。</p> <p>一つはレフネックで2年間、40講座の取組みをしていただく、一つは6講座で年間16回の講座があります。一般教養講座は11回。こちらも社会教育関係の柱としてこれからも充実させていきたいと思っています。</p> <p>公民館活動、10ほどありますが、行政センターとしての活動と学習分野においても地域の住民の方々の社会教育、成人教育のコアになるところとして充実させていかなければならないと思います。</p> <p>黒川公民館、これを日本一の里山の中でこの2つ北館と南校舎については、新築のための設計を28年度から行うことで、予算計上していただいていますので、それを進めてまいりたいと思います。</p> <p>全体のフィールド、黒川地域をどう活用していくかということは地元の方々とも協議し、憩いの場と共に学習ゾーンとしても進めていく必要があるということで市をあげてなされているところに教育委員会としても協力してまいりたいと思っています。</p> <p>キセラ川西の公園関係です。ここの水路に貴重なヤリタナゴとか二枚貝とか、こういう関係の生き物がたくさんいます。実際、ワークショップを2年間ぐらいました。ヤゴとかゲンジホタルの幼虫、そしてその餌になるカワニナとかこういったものがたくさんいます。1回の採集調査で30種類の生き物が水路にいました。</p> <p>実際に導いてビオトープ型の自然の中央公園に活かすことができれば、更にもっといいものができると思います。教育委員会としてもこういうものが使えるような、子どもたちに還元できるような取組みにつなげていくことができればと思っています。</p> <p>保護者の協力をもらわないといけなわけですが、例えば中学生の生活時間を1年間、365日で考えますと、学校で生活する時間は75日分くらいです。</p> <p>あとの290日分くらいは寝食も含めて家庭や地域で生活する時間が圧倒的に多いということを考えますと、家庭教育との関係とも協力しながら、生まれてから命を閉じるまでまさに生涯学習の理念をもった取組みというものが必要かと改めて思います。そういった生涯学習の前期の子どもたちを担う教育委員会、それから社会教育として成人教育につながる、生涯学習中期・後期の方々の支援もしていかなければならないと思っています。</p> <p>この後、市長からいただきました施政方針の中に教育関係でいくつかあります。資料の「川西の教育」の最後のところにあります。</p> <p>それから施設関係の施政方針。そして社会教育、子育て支援。全部で21の施政方針の施策をあげてあります。こういうことについて、この後、教育委員の方々からお話をさせていただいて、市長と共有させていただく中で、同じ教育の方向性をもって今後も進めてまいりたいと思っていますのでよろしくお願いします。</p> <p>それでは加藤委員からご説明をさせていただきます。よろしくお願いします。</p> <p>それでは私の方から。まずは教育保育関係の中で、小・中学校及び特別支援学校における校務支援システムに関して。この校務というのはご存知のように名簿管理から始まり出席管理、保健管理、成績・通知票の管理、あるいは指導要録の作成まで、非常に多岐にわたって現実問題として作業をするのに大きな負担をさ</p>

発言者	発言内容等
	<p>かかれているというのが課題でもあります。</p> <p>それを校務支援システムの導入により効率化し、時間を短縮することによって速効性のある効果としては時間が空きますので、子どもたちと向き合う時間が長くなるし、教材チェックなり授業準備に費やす時間の効率化が図られます。</p> <p>もうひとつ速効性だけでなく、将来的にあるいは教育的なものとしてはやはり毎年毎年の積み重ねになりますから、最大義務教育の間の9年間データを蓄積できた場合には、個人カルテみたいなものが集積されます。その個人カルテが集積されることによって、その子の履歴を掴むことによってより充実した綿密な指導ができるということが明らかなだと思えます。</p> <p>速効性があるものと長期的なもの。この2面があり、有効であるといえます。</p> <p>ただ、現場の運用というのは教職員がしまして、その評価基準とかセキュリティの問題とか色々な派生する問題がたくさん出ますので、現在においては校務の情報化検討委員会を設置して、その運用について次年度からスタートしておいて、次々年度から本格的な導入に向けて進めておりますので、そのための検討委員会を開いておるところであります。</p> <p>続きまして、施設整備関連です。</p> <p>さきほど教育長のパワーポイントでもありましたように、小・中学校・幼稚園・特別支援学校における空調の問題です。</p> <p>整備手法につきましては、PFIの手法で行おうと考えております。</p> <p>PFIについては、空調単独の事業になりますので、なじむかどうかに関して導入可能性調査をしているところであります。この4月にも導入可能か結果が出ると思えます。</p> <p>他市でも行われていると聞いておりますので、今の予定でいくと平成28年までに業者選定をし、平成29年度の夏休みを利用して、整備工事をやれたらというふうに考えています。</p> <p>最後に、設備関係で中学校給食の実施についてです。</p> <p>ずいぶん長年の懸案です。今回は一部の予算化をめざしまして、プランニングを立てたという状況です。</p> <p>平成27年3月に川西市中学給食推進基本方針が立てられて、それに従ってスタートということです。その基本方針の中では保護者に対するアンケート結果が反映されていますし、そのほか各種シミュレーションをしました結果、教育面、物理面、財政面など諸条件を考えてめざしております。このアンケートの中では児童・生徒の半数が弁当等ですが、保護者の70%が自校式の給食実施を望んでいるというデータがありました。そこに基づいて、どのようなプランが現状の選択肢としてあるかなということでも考えました。</p> <p>自校調理が実施しやすく、建設設備などの特別な要素が少ない、将来的な生徒の変動数が少ないというような条件をもとに、どこかで1箇所実施してみて評価できればというのが今のところの考え方です。</p> <p>そこにこだわるつもりがあるかといえば、まだ他にも色んな手法がありまして運営方針もわかれると思いますし、やり方についても近隣の状況を踏まえながら、まだまだ選択肢はあると思いますが、一応の結論としていろんな選択肢の中の一つとしてこういう提案をさせてもらったところです。以上です。</p>
牛尾教育長	ありがとうございました。次に磯部委員の方からお願いします。

発言者	発言内容等
磯部委員	<p>それでは、私からは学校教育関連から、4点ご報告申しあげます。</p> <p>ご報告の前に、まずは前回の総合教育会議でお願いをいたしました教育関連の事業につきまして、市長には深いご理解を賜り、事業推進の要の一つであります予算案として措置をいただきましたことに、心から感謝申しあげます。</p> <p>それでは、まず一つ目は「外国語活動の推進」について、ご報告いたします。</p> <p>今回、外国語に長けた地域人材の皆様に、小学校の外国語活動の推進に寄与いただけることにより、よりきめ細やかな指導が可能になるだけでなく、日常生活に密着した生の英語の学習に際して、日本語を介さず、英語で考え学ぶ機会を増やすことが可能になります。</p> <p>教育環境の更なる充実により、英語が話せて楽しい、通じて嬉しいという体験をする機会が確実に増え、文部科学省が目標に掲げている次世代に求められるコミュニケーション能力の育成を促進できるものと思います。</p> <p>また、このことが来る平成32年度の外国語活動の必修化や、英語としての教科化へのスムーズな移行につながるものと推察いたします。</p> <p>今回の予算案では、川西市もALT及び地域の人材によるチームティーチングが、外国語活動の総授業時数の60%に達しました。しかしながら、残りの40%にあたる15時間は、担任の教師が一人で授業をすることになるため、英語を学ぶための効果的な手法であるロールプレイのデモンストレーションや、ペアワークの際の細やかなサポートをすることが難しくなるという課題は残ります。</p> <p>平成28年度は、地域人材の活用によりどのような効果があったのか、定量化することは困難であっても、その効果を測ってまいりたいと思います。その上で、平成29年度以降は、ALT及び地域人材の更なる配置にご理解頂けますよう、お願いしてまいりたいと思います。</p> <p>2点目はこちらも新たな取組みの「スクールソーシャルワーカーの配置」についてご報告いたします。</p> <p>市長もすでにご承知の通り、スクールソーシャルワーカーを配置することで、問題行動等の背景にある様々な環境に働きかけることが可能になります。</p> <p>特に、今までにおいて学校だけでは解決が困難なケース、例えば、家庭環境等への働きかけも可能になり、より効果的に問題解決を図れる可能性が出てまいります。</p> <p>今回は既存の職員をチーフスクールソーシャルワーカーとし、新たにスーパーバイザー1名と2中学校区に週1日スクールソーシャルワーカーを1名ずつ配置いたします。限られた条件での配置ではありますが、今回の取組みは、難しい環境にある子どもたちの環境改善に向けての大きな一歩になることと思います。</p> <p>また、この取組みを効果的に運用していくためには、子どもの福祉を担う教育委員会内の子育て・家庭支援課との連携は勿論のこと、市長部局の健康福祉部にもつないでいくこと、連携していくことも必要不可欠であると認識しております。</p> <p>スクールソーシャルワーカーの配置と運用におきましても、教育委員会と市長部局との連携強化にお力添えをいただければと思います。</p> <p>3点目は「読書活動の推進」についてご報告いたします。</p> <p>今回、図書購入費について増額の予算案の措置がなされたことにより、小学校・中学校とも、文部科学省が示す蔵書率100%の目標に、一歩近づくことができます。</p> <p>また、書架については、固定概念に囚われることなく、限られたスペースで読み</p>



発言者	発言内容等
	<p>たくなるような魅力的な収納ができるように、学校司書や図書ボランティアの方々、図書委員の皆さんと相談をして購入をしてみたいと考えております。</p> <p>今後は蔵書率だけではなく、古くなった本の修繕やより多くの子どもたちが本を読みたくなるような工夫をし、子どもたちの読書習慣の更なる向上に努めてみたいと思います。</p> <p>これらの一歩踏み込んだ取組みの中心となる学校司書の配置が、十分と言えないのが現状であります。</p> <p>従いまして、読書活動の積極的な推進に向けては、現状では非常勤の学校司書を常勤化できるように、学校司書を配置することの効果をもっと検証してみたいと思います。</p> <p>最後に平成23年度から設置しております「きんたくん学びの道場」について、ご報告いたします。</p> <p>今年度で5年目を迎え、当初4校から始まった「きんたくん学びの道場」も今年度、全小学校に設置することができました。</p> <p>5年目を迎えた今、次のステージに向けて事務局の担当者が学校訪問をし、効果と課題について現状把握をしております。</p> <p>設置の目的であります児童の家庭学習の習慣化については、保護者の皆様からも一定の評価を得ております。また、子どもたちも、宿題をしっかりとこなし、その結果として予習・復習などの家庭学習の時間も確保でき、習慣化につながっている状況が伺えます。</p> <p>このことは、現在、教育委員会で協議しております平成27年度全国学力・学習状況調査の学習環境等に関する質問調査結果の家庭学習の充実に関する結果からも推察できます。</p> <p>「きんたくん学びの道場」は着実に成果を上げている一方で、更なる進化に際しては、いくつかの課題も浮き彫りになってまいりました。</p> <p>現場からは現状の支援員の人数では指導が難しいとの声が出ている学校もあります。具体的には40名程度の登録児童がいる学校に対して、現行の配置人数1名では、きめ細かな指導が難しいのが現実でございます。</p> <p>また、当初の目的であった家庭学習の習慣化から一歩踏み込んで、より発展的な学習を望む児童の学びの意欲に応えるべく、更なる学習をサポートする場面も出てまいりました。</p> <p>平成28年度は「きんたくん学びの道場」の新たなステージに向けての可能性を模索すべく、各校で培ってきたノウハウを水平展開する手段の構築や、支援員の増員、もしくは、活動日数の増加の必要性をお示しできるよう努めてまいりたいと思います。</p> <p>以上、私からは学校教育関連の中から4点、ご報告を申しあげました。</p> <p>今後とも子どもたちの未来のために、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。</p>
牛尾教育長	<p>ありがとうございました。次に服部委員の方からお願いします。</p>
服部委員	<p>私の方からは教育・保育関係と社会教育関係についていくつかお話をしたいと思います。</p> <p>まず1点目、里山体験活動について、さきほど教育長からお話がありましたよう</p>

発言者	発言内容等
牛尾教育長	<p>に川西市では小学校 4 年生に里山体験学習という学習を行っておりまして、兵庫県下では小学校 4 年生で体験学習をしているのは尼崎が最近川西市の真似をしたのですが、それ以外は川西市しか行われていません。</p> <p>この小学校 4 年生の体験学習というのは非常に有効で、「ふるさと川西」意識ということ子どもたちに持ってもらうためには最高の手段と私は考えております。</p> <p>ただ、日本一の里山ということで里山の中身が十分に理解されているかといえ、まだ十分に理解されていないところがありました。そこで今回、里山体験活動サポーターを養成するというを進めていただきました。これによって更に「ふるさと川西」意識の向上が望めるのではないかと考えております。</p> <p>2 点目は、小・中学校の社会科副読本の改訂についてです。</p> <p>現在も副読本は存在しますが、書いてある内容が少し古いということがありました。誤っているというわけではありませんが、内容自体が個別に書かれていて、連携がない。たとえば川西の産物として桃・いちじく・栗があげられていますが、それぞれが別々に出ています。実は桃畑とイチジク畑と栗畑が生えているところの環境は全然違います。そういうような立地条件との対応。</p> <p>それから源満仲公がなぜ川西に来たのかということ。鉦山が発達して、その鉦山とのクヌギとの関係は一体どういうことなのか。それから寒天産業がかつてありましたが妙見山との関係がどういうものなのかということは調べていくと明らかになるのですが、その辺りが書かれていませんでした。</p> <p>ですからそういう問題を連携させて新しい副読本を作るということも、「ふるさと川西」意識の向上ということに繋がっていると思います。そういうことも進めていきたいと考えています。</p> <p>3 点目は社会教育関係です。</p> <p>まず前も申しあげましたが、過去 5 年間で兵庫県下では 6 か所で市・町指定の天然記念物が指定されております。そのうちの 4 か所は川西市です。</p> <p>そのように文化財関係で川西市は非常に進んでいると思います。その中で加茂遺跡の保存と活用ということで、土地の買戻し・民有地の買い上げ等を行って、更に文化財関係の充実を図るというようなことを考えております。</p> <p>これも天然記念物の文化財の一つでありますので、天然記念物を含めた文化財をきちんと活用していくというのが、川西の方向ではないかと思っております。</p> <p>ということで、一つ提案ですが、「文化財都市」というのはいかがでしょうか。</p> <p>文化都市というのはありますが、文化財を使って子どもたちの教育から市民の社会学習、そういうことを含めた一つの文化財を使った環境学習というものもあるのではないかと考えております。</p> <p>もう一つ、天然記念物の指定というのは教育委員会マターですので、市長部局とは直接関係はありませんが、天然記念物の指定にあたっては所有者からの申請が必要です。現在清和台東にはシロバナウンゼンツツジという極めて珍しい植物の群生地がありまして、エドヒガンと対抗できるくらい貴重な物なのですが、その所有地は市なんです。ですから市の方から教育委員会に申請していただきますと、天然記念物で指定されるということで、よろしくお願ひしたいと思います。以上です。</p> <p>ありがとうございました。次に、鈴木委員の方からお願いします。</p>

発言者	発言内容等
鈴木委員	<p>それでは認定こども園の整備事業・保育所の保育サービス充実・留守家庭児童育成クラブの受入れ拡大の3件についてお話いたします。</p> <p>まず認定こども園につきましては、ご承知のとおり市立幼稚園・保育所の建物が老朽化していること、市立幼稚園の園児数が減少する一方で保育所等への入所待機児童が増加していること、これらの課題への対応として市立幼稚園と保育所を一体化した市立認定こども園の整備に向けて施設の設計・施工を行おうとするものです。</p> <p>東谷中学校区を皮切りに、平成30年の開設をめざし動き出しました。牧の台幼稚園と緑保育所、両現場の保育者の知恵も活かしましてあとに続く計画のためにもよりよいものを作り上げようという気運に溢れております。大きな予算を投入する事業でもあります。引き続き全市をあげてのご支援をよろしく申し上げます。</p> <p>次に保育所の保育サービスの充実について述べます。</p> <p>平成22年度より公立幼稚園の全園児を対象に体操教室が実施されております。</p> <p>これは平成19年度に文部科学省が行った「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究」、これに川西市が実践地域として3か年関わったことから始まりました。今は年2回、各幼稚園をNPO法人のインストラクターが訪れ、子ども達に大変人気のプログラムとなっております。幼稚園の先生方にとっても幼児期に必要な基礎的な体力を保障する教育内容を保育に組み入れるために大いに示唆が得られると喜ばれております。</p> <p>この体操教室を市立保育所に入所している4・5歳児を対象として幼稚園と同様に年2回実施しようとするものです。</p> <p>幼稚園と保育所の教育・保育内容の一体化をめざす中で着手しやすい分野ではあります。本事業の拡充が望まれるところです。</p> <p>最後に留守家庭児童育成クラブの受入れ拡大について申し上げます。</p> <p>平成27年4月、児童福祉法が改正され留守家庭児童育成クラブの対象が「小学生」となりました。これに伴い川西市では平成29年度までに1学年ずつ段階的に受け入れを拡大する予定です。</p> <p>28年度は対象を5年生まで広げることになります。2月1日現在97名の指導員が全16小学校と養護学校において766名の児童を指導しております。近年クラブの児童数が大変増えてきており、また特別な配慮を要する子どもが多くなっていることから、今年度より補助員を募集して指導にあたっておりますが、子ども達の安全を見守ることで手いっぱいというのが現場の実情であります。指導員の増員と適正な配置が急務です。</p> <p>以上の3件、いずれも今年度から始まりました川西市子ども・子育て計画にのっとり、安心して子どもを育てることのできるまちづくりを進めるための大切な施策です。</p> <p>ご理解と更なるご配慮を賜りますようよろしくお願いいたします。</p>
牛尾教育長	<p>お時間をとっていただきありがとうございました。</p> <p>教育委員会のこれまでの取り組みと今後の方向性について、お話しさせていただきました。この後よろしくお願いいたします。</p>
大塩市長	<p>それぞれの委員の皆様方より方向性についての示唆をいただきました。</p>

発言者	発言内容等
	<p>まず意見交換の前に先日、全国学力調査の発表がございました。お陰様で川西市はいずれも大きく見ますと一部を除き、全国・兵庫県においてもそのレベル以上にあるという嬉しい話でございましたので、委員の皆様方にはお力添えをいただいていると思います。</p> <p>私はこういうことは、いいことなのでもっとPRするようにと提案はしているのですが、なかなかPRの方法が難しいようです。</p> <p>事実そういうことを頑張ってくださいありがとうございますので、まず嬉しく思います。それから色々意見を賜ったところでございます。</p> <p>なかなか思うようにうまくいかない部分もあるかもわかりませんが、教育長から事業内容につきましてお話がありました。これは常々からやっていたいただいていることを改めて確認したところです。</p> <p>郷土館の話が少し出ていましたが、郷土館・平安邸の手前にある隣接地を買収、そこを活用しようと考えております。</p> <p>活用の仕方については、また皆様方のご意見を賜りたいと思います。</p> <p>また、加藤委員からのお話の中で、校務支援システムがまさにカルテであるというお話が出てきましたが、そのとおりだと思います。このシステム導入により、どこまで支援体制を構築できるか分かりませんが、必要なことであると考えています。</p> <p>PFI 事業については、学校の空調のみならず、この春に市民運動場がオープンします。こけら落としは3月末に予定しております。</p> <p>8月には市民体育館がオープンします。このことやキセラ川西の複合施設整備でもPFIを活用しています。</p> <p>PFIは資金の先送りという声もあります。実際、そういう利点もありますが、それ以上に今までにないやり方でいろんな知恵が出てきているところもございますので、資金についてもバリューフォーマネー(VFM)という視点でしっかり提案を受けています。</p> <p>先日、日本経済新聞の関西地区の記事で、本市のことを特徴のある良い手法を用いているということで、お褒めの言葉をいただいたところです。今回、空調整備の検討においても、その手法を用いて検討させていただいています。</p> <p>中学校給食については、教育委員会から昨年の3月に食育の基本方針を出していただいております。それによりますと自校方式ということで、今回その予算案を提案させていただいております。</p> <p>ただ今後この提案について、この手法で良いのかも含めて慎重に対応していく必要があると考えています。</p> <p>私も就任10年になりますが、耐震化工事が済んだら空調整備ということで、中学校給食の実施が先送りになってきていますので、実現に向けて取り組んでまいりたいと思っています。また皆様のお知恵をお借りして、進めていく必要があると考えております。</p> <p>磯部委員からも色々ご意見を賜りました。</p> <p>スクールソーシャルワーカーの件です。先日もオンブズパーソンの委員の皆様とお話をさせていただきました。最近の傾向として、外に発散するよりも内に留め置く子が多いというお話があり、オンブズパーソンに相談する子は良い方であって、潜在的に悩みを抱えている子どもが増えている気がするというお話がありました。</p> <p>スクールソーシャルワーカーを配置することで、少しでも状況が改善すればと考</p>

発言者	発言内容等
	<p>えています。</p> <p>学びの道場につきましては、指導者不足という問題を抱えていますが、一定の成果があがっているものと思いますので、引き続きよろしくお願ひいたします。</p> <p>服部委員からの意見です。いつもありがとうございます。里山保全の指導者が高齢化もしておりますが、豊かな里山の資源を維持していきたい、育てていきたいと思っております。</p> <p>また、文化都市ではなく「文化財都市」という新しいご提案もいただきました。</p> <p>加茂幼稚園については、史跡などの関係から園舎の拡張が困難なため、同園を旧加茂小学校のところへ移設することを提案していこうとしております</p> <p>そのため、加茂幼稚園の跡地を活用して何か文化財関係の拠点とする方法も考えられますので、幅広く検討していく必要があります。</p> <p>一点、清和台のシロバナウンゼンツツジというのはどのあたりに群生しているのでしょうか。</p>
牛尾教育長	<p>清和台の、虫生ダムの下のところの橋の降りたところ右手一帯です。</p>
服部委員	<p>ニュータウンの斜面部分に緑地がそのまま残されていますが、緑地全体にウンゼンツツジが生えています。ツツジの種類はシロバナウンゼンという仲間です。真っ白い花が咲きます。</p> <p>ウンゼンツツジというのはだいたいピンクなのですが、それが真っ白なのでシロバナウンゼンという名前がついています。</p>
大塩市長	<p>それは以前からあったのですか。</p>
牛尾教育長	<p>清和台東にボランティアでその辺りを整備なさっている方がおられ、その方が見つけられて。服部委員が確認に行ってくださいました。</p>
服部委員	<p>シロバナウンゼンツツジはものすごく珍しいかと言われれば、そんな珍しいわけではないんですけど、ただ川西であるのはここだけですし、神戸なら六甲山の一角ぐらいにしかないのが珍しいことは珍しいです。</p> <p>特に群生している状況がすごいです。</p> <p>普通でしたらウンゼンツツジというピンクのツツジが多いですが、そこは真っ白です。</p>
大塩市長	<p>今まで市では取り上げていませんよね。</p>
服部委員	<p>取り上げていません。</p>
大塩市長	<p>そのように珍しいものであれば、ぜひ今後の資料、たとえば教育だけでなく観光の方も含めて、市のPRなんかに取り上げられたらと思います。</p> <p>鈴木委員からも認定こども園の経過的な話をいただきました。</p> <p>色々なご意見がありましたが緑保育所と牧の台幼稚園の統合には尽力しているところです。</p> <p>一方で、施設の整備だけではなく、保育の内容を充実させる必要があると考え</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>ています。</p> <p>また、留守家庭児童育成クラブについても、随時増やし、今年は5年生まで延ばしていくということでしたので、色々なご提案について、市としてもしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。</p> <p>今後につきましても、対応・実現できることできないこともあると思いますけれど、意見を交換することはとても大事なことでありますので、色々ご提案をいただきますよう、よろしくお願いいたします。以上、私の意見とさせていただきます。</p> <p>本日はありがとうございました。</p> <p>他に何かありますでしょうか。ないようでしたら私からは以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>これで第3回の総合教育会議を終了します。皆様、お疲れ様でした。</p>

以上会議の事項を記録し、相違ないことを認めたので、ここに署名いたします。

平成28年3月17日

川 西 市 長      大 塩   民 生

川西市教育長      牛 尾   巧